



戦略

「ふくい企業の挑戦」

全国的に愛好家が多い和太鼓。ステージ映える華やかで個性的な衣装を望む声に応えようと、製版業の横山工藝（本社福井市桃園2丁目、横山国男社長）は今年4月、太鼓衣装受注専門のネットショップを立ち上げた。長年培ったデザイン力と繊維産地との横の連携で、多様なオーダーに対応している。海外からも注文が入るなど、徐々に認知度を高めている。

創業以来、婦人服や傘の生地プリントを施すスクリーン版の製造を手掛けてきた同社。しかし大手アパレルメーカーの中国シフトが進み「受注量は往時の2

横山工藝（福井市）

「3割」（横山社長）まで落ち込んだ。新たな収益源として2005年、よこい衣装をオーダーメイドで製作するサイトを開設した。知名度が高まるにつれ「法被（はっぴ）など」既製品でないオリジナリティーある太鼓衣装が作れないか」との要望が多く寄せられるようになった。よこい以上に市場が大きく、需要が見込めると判断。サイト開設から約半年で県内外の約20チームから注文が入っている。プリント製版で蓄積した

1600万色以上の染色可能



横山工藝が企画開発した個性的な太鼓衣装。専用サイトを通して注文が増えている＝福井市桃園2丁目

技術を基に、主に合繊繊維「他グループと差別化を図るも向けタイプなど新商品も」の生地に顧客の希望の柄やリたい声に応えられる「サ色をプリント、染色する。色イトの横山奈保子社長）。横山社長は「生地から織は1600万種類以上が可着脱が染にできる袴と脚布、染色、縫製まで一貫し能だ。グラデーションや柄半の一体型タイプや、面フてそろう繊維産地のバックの組み合わせも自由自在でアスナーで着用できる子どアップがあるからできるビジネス」と強調する。自社で難しい生地やデザインは外注で対応し、顧客の予算に応じた商品を提案する。和太鼓はよこいに比べて1チーム当たりの人数が少ないが、3年前に導入した版が不要なインクジェットプリンターで5人分など小ロットにも応じることができる。

「よこい」「太鼓」のほか、かばんや衣服、雑貨など趣味で手芸を楽しむ人向けに生地プリントを施すサイトも運営。これらのネット関連が売り上げの約4割を占めるまでになった。「消費者に接近する」として新たなマーケットを掘り起こしていきたい」と横山社長は展望を描く。

太鼓衣装ネット受注